



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

3・4月号
2003年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



3月通常総会を開催、役員選挙投票を行います。

3月11日(火)午後1時より5時まで、東京都羽田空港ターミナルビル「ビックバード」のギャラクシーホールで、2002年度のJHF3月通常総会を開きます。

議案は、2003年度事業計画の決定について、2003年度収支予算の決定について、定款の一部変更について(青森県連盟案)役員辞任の承認について、そして、役員選挙による選任について。傍聴をご希望の方は2月28日までにJHF事務局にご連絡ください。尚、総会当日の午前中に情報交換会を、総会終了後には親睦会を行います。



独DHV、仏FFVLの調査研究をしてきました。

関谷暢人常任理事、小林秀彰制度委員長の両名が、昨年12月9日から16日まで、ドイツとフランスのハング・パラグライディングの連盟を訪問し、組織の在り方について調査研究を行いました。運営方法や安全のための取り組み等、JHFの将来を考えるヒントになるでしょう。(11ページをご覧ください。またJHFホームページに報告掲載中。)

写真1: DHVの荷重テストを見学。

写真2: FFVL会長と小林(中央)関谷。互いに組織概要を説明する。

富士山麓で2003年競技スタート。

2003年のポイントレースがハンググライディング・パラグライディングともに富士山麓でスタートしました。年末年始の「西富士ジャパクラシック」は生憎の気象条件でしたが、1月11日からの「丹沢スカイグランプリハンググライディング大会」パラグライダーレース in 富士山」はどちらも3本成立。続く大会も条件に恵まれることを!

写真3: 西富士ジャパクラシックより。真っ白な富士が美しい。(撮影:北野正浩)



「PWC茨城」開催、イベントも盛り沢山。

3月24日から30日まで茨城県新治郡八郷町で「2003パラグライディングワールドカップ茨城」が開催されます。世界で活躍するパイロットの飛びを生で見るチャンス。パラグライダー体験会や熱気球体験会、フットサル大会、地元特産品即売会等、いろいろなイベントも予定されています。また、21日・22日に八郷町エアパークCooで開催されるJリーグ大会「03ジャパンカップCoo」には、PWC選手が出場する予定も。

(10ページの「カレンダー」をご覧ください。)



2003年日本選手権は長野県・茨城県で。

今年のパラグライディング日本選手権開催地が、長野県北安曇郡の白馬八方尾根スカイステージアルプに決まりました。9月19日から23日まで、日本一の座をかけて全国のパイロットが腕を競います。また、ハンググライディング日本選手権は、10月12日から18日まで、茨城県新治郡八郷町の足尾山エリアで開催の予定。辻強、大門浩二、両選手権者の連覇が実現するか、はたまたま.....乞う、ご期待。

写真4: 2002年PG日本選手権より。左から2位川内正孝、1位辻強、3位加藤豪、各選手。今年勝利を手にするのは?



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

JHFレポート 3・4月号

もくじ

P2-JHF役員選挙 立候補者公示 P3-委員会の動き P4-出でよ、熱き血の若人! / 初めての
の大会 P6-安全講座 クロカンに出るなら P7-運用限界について P8-2002年事故概要
P10-県連ニュース/カレンダー P11-ドイツ・フランスの組織 DHV・FFVL海外調査研究
の報告 P12-理事会ダイジェスト/理事活動報告 P13-@sky

JHF役員選挙 立候補者公示

今年の3月総会で行う予定のJHF役員選挙への立候補を、2月4日に締切りました。6名の立候補届け(すべて理事)を受理し、立候補者公示を2月18日に都道府県連盟(JHF正会員)に向け発布しました。理

事の最大定数は11名の為、投票は各立候補者に対する信任投票となること、監事の選挙については、立候補者ゼロで成立しない為、6月総会での補欠選挙実施が確定することも告知しています。尚、理事の最小

定数は6名ですが、総会で決定された場合は増員選挙を実施する事ができます。JHF選挙管理委員会 委員長 内田孝也

(以下は立候補者の意志表明書です。)

関谷 暢人

この度の2003年度JHF役員選挙にあたり、「理事」立候補の意思表明をいたします。



私は1977年に大分県でハングライダーを始めてから現在まで、常日頃からこのスポーツを一人でも多くの人に安全に楽しんでもらいたい、という気持ちと、スポーツとして、また、レジャーとして一日でも早くメジャーになってほしいという願いから様々な普及活動に関わってきました。

社会に対しては、1981年HG世界選手権別府大会や1995年PG世界選手権北九州大会などの公式競技会のみならず、各ポイント大会や文部省主管PG体験会などに参画、組織内では1987年度安全性委員会委員及び1992年度教習委員会委員長を経て、1997年から理事に就任し現在に至っております。

振り返って見ると、このスカイスポーツも30年をすでに越えています。「どこで体験できるのかわからない?」など多くの意見を今だに聞き、大衆化されていないことを思い知らされます。又、「愛好者数も」経済情勢の影響もあるのでしょうか減少傾向に歯止めが掛からず安定しておりません。

このような状況を考えると、JHF組織の資源確保と有効活用による「社会に対する啓蒙活動」と、「愛好者が楽しく安全にフライトできる環境作り」を一段と推し進めることではないでしょうか。例えば「各種媒体を活用したスカイスポーツのアピール」や「事故ゼロ運動」など、様々考えられると思います。

今後ともこれまでの経験を生かし、より一層「スカイスポーツのメジャー化と会員の安定化」が図れるよう、JHF活動を通じ具現化したいと思えます。

(東京都ハング・パラグライディング連盟推薦)

伊賀 隆一郎

一昨年6月の理事就任以来、はや1年半を経過し、立候補当初より活動目標とした課題「会員の増強、底辺の拡大」、「ローカルの教員にも負担のない更新講習会の実施」に、具体的な成果を得る事なく、任期を終わろうとしています。上記問題に加えて、「現在進行中の活性化対策案を充実させて実行に移す」新たにHGフライヤーを含めた、保険制度の見直し、等を課題として、理事活動を継続したいと考え、再び立候補いたしました。



全国のフライヤー諸氏の、応援、ご協力をお願い致します。

(香川県ハンググライディング連盟推薦)

瀬戸口 裕郎

平成13年から理事として努めさせていただきました。

この間、たくさんの方からご指導お叱りを頂きました。深く御礼申し上げます。

新任理事として、皆様から付託された業務を行うにあたり今日まで感じましたことは、組織として機能を十分に発揮できていないのではないかとことです。JHFという組織の形態はできました。が、中身の成長が必ずしも伴っていないのが現在の大きな問題点であろうかと思える任期でありました。

この度旧任期中の反省に基づき、組織の強化を図り、一般社会へ更なるスカイスポーツの振興普及をすすめるべく再度役員として立候補致しました。

強化策については、組織そのものの形態を見直すこと。つまり、管理部門及び各委員会の役割分担と予算配分の目的を明確化しメリハリのある運営を行う。

活性化委員会の答申にそって、実現可能なものから速やかに対策を講じる体制を構築したいと思います。

また、会員の声を反映できるシステムを考えます。総会時だけでなく、いつでも会員の声が届く組織にしなければなりません。

併せてこのところフライヤーが関わる事故が多発しています。基本的なルールを守ること。これですべての事故が無くなるわけではありませんが、少なくとも安全にもっと関心を持っていただけるような環境作りを行って行きたいと思えます。普及振興については、関連するイベントを積極的に利用して活動を行います。

スカイレジャージャパン・日選等あるいは自治体の行事にかぶせた普及活動を強化致したいと考えています。

(香川県ハンググライディング連盟推薦)

朝日 和博

JHFは全国のフライヤーの願いが具体化したものであると思えます。その願いとは「感動的なフリーフライトを絶やしてはならない」という気持ちであると思えます。



JHFは既に法人格をもって社会的な立場をもつことになりました。しかし、それで安心して立ち止る訳にはまいりません。常に自己点検を続け、その上立って改革を続けていかなければなりません。

それぞれ異なる立場で色々な考えを持っています。その違いを理解しあいながら、何処までも一緒にこの素晴らしいスポーツを発展させていかなければなりません。

活性化対策委員会によってJHFの問題点を整理していただきました。これを基にして今後のJHFを語り合っていきたいと思えます。

このたび立候補いたしましたのは、上記の想いをもって、JHFを未来の世代に引き継いでいく為、できる限りの努力をしようと思ったからであります。ご賛同いただければ幸いです。

(秋田県ハング・パラグライディング連盟推薦)

荒井 稔

私はパラグライダーでフライトを始めて今年で14年目を迎えます。また神奈川県連における普及活動もまもなく10年になるとうして



います。近年の不況の影響か、あらゆるものの縮小が見られるなか、スカイスポーツの世界もご多分に漏れてはいないと思えます。各スクールにおかれましても、大変厳しい状況は言うに及ばぬところであります。このような状況に限らずJHFの役割は大変重要な位置にあり今後のスカイスポーツの姿に大きく影響するでしょう。すでに普及の時代は終わり、振興の時であるという見方もあるようですが、まだまだ普及という種まきの必要性を感じます。いまだハングとパラの区別が付かない市民が大多数を占めているようでは、このすばらしい世界も一部の趣味者の遊びに終わってしまい、将来は明るいものとは言えません。近年以前よりフライトのチャンスが減りつつあるものの、その反面この世界を外面より見る事が多くなったように思われる私ですが、JHFをはじめスカイスポーツの将来の発展にその私の経験が生かせればと思ひ、立候補を決意いたしました。

(神奈川県ハング・パラグライディング連盟推薦)

次ページに続く

宮田 富由

現在JHFの理事として活動しておりますが、来期も神奈川県連の要請を受け立候補いたします。

私は来期も引き続き
1.一般フライヤーの処遇

このスカイスポーツの世界も一般フライヤーが居てのものだと思います。一般フライ



ヤーが楽しく安全にフライトが出来るような処遇を考えていくことが一番大切だと思います。

2.普及活動の推進

スカイスポーツの世界はまだ社会的に認められていない部分が多いように見えます。スカイスポーツを一般の多くの方々に理解してもらうことが私達の課題だと思いますので、普及活動を推進することが重要ではないかと思います。

3.都道府県連盟の支援

JHFの活動の主体は都道府県連盟ではないでしょうか。活動の主体である都道府県連盟が活動しやすいように支援をしていくことが都道府県連盟の活動の向上につながっていくのだと思います。

以上のことを目標に一般フライヤーの代表としてJHFで活動をしていきたいと思ひます。

(神奈川県ハング・パラグライディング連盟推薦)

委員会の動き

安全性委員会

1月15日の定例委員会で以下の報告・決定がありました。

- 1 関谷理事よりドイツ(DHV)・フランス(FFVL)視察についての説明があった。
- 2 JHSCホームページ内のセーフティノーツの運用指針(以下)を決定。
- 3 事故調査手順の改訂があり承認された。
- 4 オーストラリアで起きた邦人の重大事故の報告がなされた。

日本国内の事故を管理するのが本来の目的であるが、トーイング中だったことから、調査・広報を行うこととした。

セーフティノーツ運用指針の概要
目的:セーフティノーツは、ハンググライダーやパラグライダー、装備品を購入したユーザーに対し、JHSCのホームページを利用して安全情報を迅速かつ効率的に提供し、事故防止に役立てることを目的とする。

利用資格:このシステムは、上記の目的に沿う限り誰でも利用できる。ただし、特定の製品の優越性を強調し、または他の製品の欠点を非難する内容であってはならない。

情報源:情報源はDHV、FFVLおよび製造メーカーなどの信頼性が認められているものでなければならない。

JHSC委員長の役割:委員長は、掲載内容を常に注意し、必要なときは助言する。また一般的な耐空性改善情報(例:DHVのAirworthiness advisory)の処理にあたる。 [記:幸路尚文委員]

制度委員会

前号でお知らせしたように、12月9日から16日まで、8日間をかけて、DHV(ドイツ)及びFFVL(フランス)の組織全体の調査研究を行ってきました。スカイスポーツの先進国であるドイツ、フランスから日本が学ぶべき事例は、たくさんありました。詳しくは、報告書を作成しますのでそちらをご覧ください。

[記:小林秀彰委員長]

ハンググライディング競技委員会

今年8月23日～9月7日にBrasilia - DF - Vale do Parana - Formosa -GOで開催される第14回世界選手権の出場選手の選考が終了しました。

チームリーダーは郷田徹。選手は大門浩二、板垣直樹、大沼浩、鈴木博司、平林和行、安東正夫の6名です。応援をよろしくお願いします。

ハンググライディングシリーズは2003年シーズンからGPS判定にしましたが、特に大きな混乱は見られません。これから参加を予定されている方は2003年ルールブックをよく読んでルールをご理解のうえ競技に参加してください。

2003ハンググライディングシリーズの第4戦は3月19日～23日の「2003板敷スプリングフライト」の予定。結果は随時速報の形でホームページにて発表する予定です。お楽しみに!

また各大会でハンググライディングシリーズの現地登録を行っています。

当委員会の情報はホームページにてお知らせしていますので、よろしく願ひします。尚、事務局にメールをくだされば「競技委員会インフォメーション」をお送りします。

H G 競技委員会事務局
E-mail:haku@effect-jp.net
http://jhf.skysports.or.jp/HG/

[記:日下部はく委員長]

パラグライディング競技委員会

2003年度競技が始まりました。今年は1月の朝霧での大会が条件に恵まれて好スタートが切れました。主催者の皆さんお疲れ様でした。昨年まで天候に恵まれなかったコンペションが今年こそ活気づいていけることを願っています。

競技委員会では昨年末に新しいクラス分けを考えていましたが、パラグライダーのレギュレーションによるクラス分けには問題も残り、一時保留とさせていただきます再度話し合いを持つ予定です。現在の登録選手もそうですが、新たにジャパンリーグへ参加しようとする選手が、

今より気軽に試してみようと思ってもらえるようなルールを作ってゆきたいと思ひますが、難しくなかなか答えが出ないのが現状です。

3月にはPWCが予定されています。なかなか海外でのPWCに参加できない選手が、国内でPWCという舞台でフライトする機会ができることが、この先の大会に対する目標になってくれることに期待しています。 [記:曾我部真人委員長]

補助動力委員会

「JHF補助動力委員会への提言」募集
JHF活性化対策活動に呼応して、全国のフライヤー諸氏より今後の補助動力委員会の活動および役割に関し、幅広く率直なご意見ご提案を賜りたいと思ひます。

すでにホームページでは募集を開始しており、数多く貴重なご意見を頂戴していますが、HP同様ご提言いただくテーマは次の4つを主題としたいと思ひます。

- 1 存在する2つの組織に関する提言
JHF補助動力部門とJMLフットランチド部門の2つの組織に関して、このままで良いのか。どちらかに統合すべきなのか。または、もっと役割分担を明確にして活動すべきなのか。
- 2 騒音問題・フライトマナーに関する提言
- 3 スクールの在り方および教習内容の統一化に関する提言
- 4 今後の普及発展に関する提言

以上のテーマに対してお寄せいただいたご意見ご提案は、後日公開する予定です。従いましてご投稿に際してはご本名でもニックネームでも匿名でも差し支えありません。ご投稿はEメールでも、FAXでも、また郵送でも結構です。

Eメール:jhfpc@bright-jp.co.jp
FAX:03-5840-8312
郵送先:〒241-0022
神奈川県川崎市多摩区壺2-12-3-306
星野方 補助動力委員会
勝手ながら受付は3月20日までとさせていただきます。 [記:山崎勇光委員長]

出でよ、熱き血の若人!

HG & PG競技委員長「競技」を語る。

ブラジルとポルトガルで世界選手権が開催される2003年、
日本の競技はどう変わっていくのか、どう変わるべきか。
日下部博、曾我部真人両競技委員長が胸の内を語った。

2003年は世界選手権の年です。選手選考など準備が進んでいると思いますが、日下部（ハンググライディング競技委員長）ハングはランキング上位から選手5人が決まって、最後の一人をこれから選考委員会で決めます（編集註：1月17日に決定）。個人的には、選考委員会じゃなくて競技委員会が推薦すればいいと思うけど、ルールだから……。

曾我部（パラグライディング競技委員長）世界選手権は国として勝ちに行く大会だから、フランスやスイスみたいに、実績がなくてもその時に勢いに乗ってるパイロットを出場させるのが、絶対にいいと思うんですよ。パラもそうしたいけど、CIVLのランキングがからんできちゃうんで、実績がなければ出場できないから、パラはランキングだけで選手を決めます。つまんないと言えばつまんない、順当と言えば順当。問題は女子。ポイントが不十分なんです。まだ日本の女子選手枠が何人になるかわからないけど、枠があっても出られないということがあるかもしれない。

公認国際大会で頑張らないといけませんね。茨城のワールドカップとか。

曾我部 でも日本人枠が何人になるか。ワールドカップでも世界選手権でも、出るためには世界の大会で成績出していない。主催者側のセレクションがありますからね。実力がわからない人を出すわけにいかない。事故を起こしたら、みんなの足を引っ張りますから。

国内だけで活躍してもダメですか。
曾我部 もちろん国内ランキングを上げていかないとどうしようもないです。今の日本は世界で4位とランクは高いんで、



日下部HG競技委員長（左）と曾我部PG競技委員長。

日本選手権で10位までに入ればワールドカップに出られるんです。日本はコンディションが悪いからではなくて、どういう目標を持ったトレーニングをしているかだと思うんです。漠然と長い時間フライトしているだけでは、競技のためのトレーニングにはならないんです。実践の場としてヨーロッパだけじゃなく、いろんな国の大会に出れば、いいトレーニングになります。たとえば海外で50kmタスクでゴールした経験があれば、30kmのレースを自分なりに組み立てることができる。経験がなくて30kmが精一杯の選手とでは大きな違いが出てきます。

日下部 ブラジルのプレワールドに出場した学生なんか、急にうまくなった。意識も飛びも変わって、大きくなった。

そういう新人にもチャンスあげたいですね。

曾我部 でも意欲のある人が少ないように思える。

日下部 ひっぱる人が……

曾我部 いや、「やりたいんだ!」という選手が少ない。最初から諦めてるんですね。世界選手権にはメーカー関係の選手しか行けないという諦めが、国内の成績も上げていかない。

日下部 ハングは2003年からスコアリングがGAPシステムになるから、古い意識では勝てなくなる。今までの日本独特の駆け引きは通用しなくなるね。日本選手が海外で勝てなかったのは、国内のスコアリングにも問題があったと思う。

では、2003年のランキング上位は顔ぶれが変わるかもしれませんね。

日下部 ぜひ変わってもらいたい。

曾我部 イキのいいのがほしいね。トップの連中にただついて行くんじゃなくて、あいつらを負かしてやろうという人が少ないと思う。最初ば「行け行けどんどん、ひゅーっ、どーんっ!」でいいんだけど。

日下部 XCパイロット技能証ができた時、若いのが大会に出られなくなっちゃって。XC証取るのは時間がかかるからね。学生が大会離れて、当時の競技委員会は危機感を持った。で、少しは意識が変わるんじゃないかと、学生リーグを

作って。2001年ぐらいからHGシリーズの大会に出てくる学生が目に見えてふえましたね。学生リーグで競技のおもしろさを知って、「じゃ『大人』の方にも行ってみようか」と。国際大会に出て行く学生もいるし、ハングはいい感じにちょっとなってきたかな。

パラのSPS（スポーツパラグライダーシリーズ）も競技のおもしろさを広めるのが狙いですが。

曾我部 2002年は4大会中1大会だけの成立でした。残念ながら。同じように一般人のたちが楽しむ大会としてF-1があって。あっちこっちの大会に選手が散らばってもしょがないんで、楽しむ大会はF-1だけでいいんじゃないかという考えもあります。でも、F-1は条件がよくても何でも10kmしか飛ばない。ジャパンリーグとの差が大きすぎる。20km、30kmやってよとリクエストしているところです。苦労してコンプリートしてゴールを切るところに大会の喜びがあるんですから。難所を切り抜けて、ゴールに向かってファイナルグライドしてる時なんか、もう最高の気持ちじゃないですか。

日下部 SPSやF-1みたいな大会をハングもやるべきだと言われてきたけど、ただでさえ人口が少ないんだからヘタに分けられない。おもしろさを知ってもらうという意味では、2003年はハンググライディングシリーズとは別に、パイロン競技をした公認大会の順位でポイントをつけるようなことをやるかと思って。自動車のF-1みたいに。選手はどういう反応を示すかわからないですけどね。

曾我部 主催者がその気になってくれて大会がふえても、選手が集まらないと。パラはジャパンリーグ大会で50人ぐらいしか出てこない。これまで大勢集まっていた大会でも激減してショック。経済的な理由だけでなく、競技への意欲が薄れているかな。

勝つことに執着する人が少ない、と。
曾我部 競技の楽しみ方は人それぞれだから、全員に世界をめざせとは言わないけど……「世界」を求める熱き心が減ってるんじゃないかな。実力格差が大きくなっちゃって、なかなか頭を出せないと

というのはあるけど。

楽しみ方はそれぞれとしても、競技の楽しさの原点は、どこにあるんでしょう。日下部 大会じゃなくても「人より高くなった」って喜んでるんだから、何でも人よりよかったら嬉しいんじゃない。

曾我部 闘争本能なんて日本人の気質にあったのかね。

日下部 ちょっと弱いかもしれないけどあるでしょ、農耕民族だって。人よりうまい米を作ろうと思うから、おいしい米ができるようになったんだから。競う気持ちがなかったら変わらないよ。

曾我部 競技のおもしろいところは、何人もの選手が同じ条件下で飛んで、自分の考え方・戦い方をして、客観的に評価できること。自分のエリアではトップクラスだったのが、大会に出て井の中の蛙だったとわかって、もっとうまくなろうとするんです。競技は人を育てる。

日下部 競技がないと「スポーツ」じゃない。ただのレジャー。スポーツだからこそ競技がある。

曾我部 バレーボールでも何でも実業団がダメになって、それだけでそのスポーツがへこんでいくじゃないですか。スポーツが発展していくかどうかは、その競技が発展しているかどうか、なんです。

日下部 だいたい、社会の中のスポーツの位置が日本は低いよね。文化にお金かけないもんね、あんまり。企業頼みだし。

競技は、ある意味ではそのスポーツの広告塔みたいなものですね。

曾我部 辻選手がグラナダのワールドカップで優勝して、どれだけ世間に露出したか！ 知らない競技でもオリンピックなんかで勝てば話題になる。認知度が上がれば、新規の人を呼び込める。未だにハンググライダーとパラグライダーの区別がつかない人がたくさんいるんだから、もっともっとマスコミに出ないと。やっぱりスターが必要です。

日下部 たとえばサッカーのロナウドとか、目標にできる人がいれば、少年は頑張るよね。スターを育てるのは莫大なお金がかかるけど。

曾我部 世界選手権に行くだけだって相当たいへん。チームとしてトレーニングすれば、さらにお金がかかる。でも、寄せ集めで参加してもチームフライトできないから勝てない。お金出さないで成績上げてこいって言ったって無理ですよ。昔、ハングの選手をオーストラリアでセールブレーションに乗せて強化トレーニングさせたじゃないですか。ああいうことは続けないと意味ないです。

日下部 年間スケジュールを決めて、計画的に強化していかないとな。

ちょっと戻って、マスコミに取り上げてもらおう工夫も必要ですね。

日下部 世界選手権のブラジリア開催が決まった理由の一つが、市街地にゴール

して世間に強くアピールできるからだって聞いた。実際に首都のどまんなかにならゴールするかどうか、わからないけどね。曾我部 最近のワールドカップは、エリア内の町の上をまわってから外に出て行って、帰って来てまた町の上をまわって、町中にゴールなんです。多くの人に見てもらって盛り上げるためにね。選手には評判よくないらしいけど。

理解を得るには、やはり見てもらわねば。競技を観戦者にも楽しんでもらえるようにしようと言われ続けてきました。曾我部 でも、大会で飛べないのはザラですから。大会でなくてもバラが飛べる確率は低い。

日下部 雨でも降ってれば諦めてもらえるけど、天気がいいのに何で飛ばないのかって。飛ばば飛んだで、どこかに行っちゃうしね。大会に行く途中、ウインドサーフィンの大会を見に寄ったら、風が悪くてキャンセルだったんだけど、会場に音楽が流れて、お店がいっぱい出て賑やかだった。観客はレースは見られないけど海で遊んでたし。

空では気軽に遊んでもらえませんか。いかに見てもらうか、これはずっとついてまわる課題です。最後に、一言どうぞ。

曾我部 天気がよくなるといいな。それから、青年よ、世界をめざせ!

日下部 ハングはやっぱり学生だよ。学生を支援していかないと未来はない。

初めての大会

学生新人戦に参加して

昨秋、山形県南陽市でハング&パラグライディングの学生新人戦が開催された。残念ながら悪天候で不成立だったが、競技に初参加した選手たちはそれぞれ大会の楽しさを感じ取れたようだ。選手を代表して3人に感想を話してもらった。

岩崎 摩理江

初めて他のエリアで飛ぶと言うことで、とても緊張していたので、事前にランディングのイメージトレーニングをしていましたが、天候が悪く飛べなかったのが残念でした。しかし、空いた時間にみんなとわいわいとゲームしたり、温泉に入ったり、とても充実していました。これ



岩崎摩理江



富樫宜信



石橋里江子

もフライヤーの楽しみ方だと思いました。

富樫 宜信

山形出身の私には地元での開催の大会。とても楽しみにしていましたが不成立でとても残念です。

空いた時間を利用した安全講習会で自己管理の重要性を知り、今後事故のないフライヤー生活を送れるように努めていこうと思いました。そして、普段はなかなか知り合えない関西の方などと交流を持てたことがとてもうれしかったです。

石橋 里江子

私の理想はテイクオフ、ランディングともに軽やかにカッコよくきめること。また、自分の飛びだけではなく後輩にも気を配ってアドバイスをしてあげられるようになりたいです。そして、最終的に目指すは世界のトップフライヤー。パラグライディングをオリンピック競技にさせたいです。

ストロボライト Lightman

フライトの安全性向上のために
点滅式ストロボライトを携帯しませんか?

- 曇天や夕暮れ近くの空中衝突事故防止に。
(光は最高3.2km先まで届きます。)
- 電池使用で軽量、持ち運びが簡単。
(本体+単3電池2個で約100g)



詳細は 三晶株式会社 担当: 山本まで
電話: 06-6941-4131/090-189-65870

JHF賛助会員 No.JA02-001

クロカンに出るなら

山笑う季節を前に、XCパイロットは落ち着かない。

気象情報に一喜一憂、狙いはもちろん大記録。

しかし、何か忘れていませんか？

春になれば猫も杓子も……

大気が甘い春の香りを漂わせはじめると、呪文のように聞こえてくる言葉がある。エリアに行けば、「この気圧配置なら右ルートだね」とか、「町の上空はサーマルないんだよねえ」などという話題があふれている。初心者は憧れ、上級者ももっぱら記録にこだわる。猫も杓子も口から出てくる言葉。「クロカン」。

知らない土地へとプチ旅行気分。野を越え山越え町を越え、土地土地を渡って行くクロスカントリーフライトは、楽しく刺激的な遊びのひとつです。

雲底が上がりほどよい風が吹き始めると、みんな当たり前のようにエリアを離れて行くけれど、本当に大丈夫ですか？準備は万全ですか？

飛行機や車での移動なら、時間と経路を調べ、あとはお金があれば、事足りま

す。しかしクロカンとなると、そう簡単にはいきません。サーマルはお金では買えませんし、あるところも変わります。日が傾けば、売り切れもあります。

「けど、そんなの行ってみないと分からないじゃん？」

そう、その通りです。実際に行ってみるのが一番です。ですが、いきなり飛んで行くのは危険です。

下見をしっかりとすること

まずは下見。これをやるか否かでは、結果は随分変わってきます。それは単純に記録がどうのということではなく、危険要素を減らす作業と考えてください。地図情報で得られるのは、大雑把なもの。クロカンで一番危険なのは着地なのです。空中から見て降りやすそうだなと思える場所は、たいてい人の手が増えられています。うっかり畑に降りて、地主にカマを振り回されるなんてこともあるかもしれません。田んぼだって水が入っていれば、泥まみれなんてこともあります。降りられると目星をつけていた場所に、いきなり建物が建っていた…なんてことになったら怪我だけでは済まないですから。

実際に飛行経路を下見すると、降りられそうな場所の確保はもちろんのこと、様々な情報を得ることができます。田んぼばかりでなにもないと思っていたら、無数の細い電線があったとか、サーマルポイントだと思っていたら、風の集束帯だったなんてことも発見できるかもしれません。

下見を怠ったことで、とんでもないトラブルに巻き込まれた実例があります。

とある国での出来事。そろそろ高度も低くなってきて、パイロットは降りることを考えだしました。これとって危険そうな場所とは思えず、その辺のグラウンドにでも降りればよいと思っていたと、地上からガヤガヤと声が聞こえてき

中川俊也、XCリーグ覇者に!

パラグライディングクロスカントリーリーグの2002年ランキングが、以下のとおり決定しました。今年もそろそろXCシーズン。ぜひXCリーグにご参加ください。もちろん周到な準備をお忘れなく。(XCリーグのルールや順位、申請用紙はJHFホームページのPG競技委員会のページに掲載。)

PG-XCリーグ2002年ランキング

1位	中川 俊也	258.8km (104.1+68.5+57.2+29.0km)
2位	小山 知子	238.1km (83.9+62.4+48.0+43.8km)
3位	関口 典彦	192.8km (58.7+56.8+56.5+20.8km)
4位	金森 宏之	182.1km (59.0+50.4+43.3+29.4km)
5位	足蒨 良彦	176.8km (57.9+44.5+38.0+36.4km)
6位	仲野 勝明	153.9km (47.0+44.0+32.1+30.8km)
7位	伊藤 和寛	151.9km (78.0+47.1+26.8km)
8位	古郷 誠	145.3km (45.9+39.7+31.0+28.7km)
9位	箕輪 真一	128.7km (43.0+30.6+30.2+24.9km)
10位	コレソフ アレクサンドル	109.7km (109.7km)



1位 中川俊也さん

田んぼに水が入り始めた時期でランディングできる場所が少い14月のゴールデンウィーク前に、104kmという自己新記録を樹立したことが、とても印象的でした。自己新記録を出した時、足尾からテイクオフし最初は高度がなかなか稼げませんでした。茂木のあたりからどんどん北上し、白川でできていた積雲で上げきり福島に入りました。夕方5時過ぎだと言うのに1700mまで上げることができたのは本当によかった。

2003年度の目標としては、XCは条件次第ですが自己新記録を更新できれば良いと考えています。平日が休日なので大会には参加できませんでしたが、今年は3月にオーストラリアのマニラの大会に出るので、頑張ってきてたいです。

ました。下を見れば、100や200はいるのではないかと思える群衆が、自分を指さし歓喜？しています。その国のフライト注意事項の中に、スラム街の近くは降りるな。命の保証はしない。という項目があり、眼下はまさに、そのスラム街と思われる場所でした。これはまずいと、慌てて方向転換すると、群衆もそれに合わせてぞろぞろと向きを変え、また群衆は増える一方。冷や汗タラリだけど、なんとかしなければと、必死にグライドしていると、なにかの施設のフェンスと思われるものを越えました。なぜか群衆はそのフェンスで止まり、群衆から逃れることに成功しました。その喜びも束の間、高度は既に100mを切り、施設内のグラウンドに降りることになると見下ろすと、建物の横には整列をした人と大砲…。大砲？？と思うも、既に高度もなく、ファイナルアプローチし、無事にランディング。ちょっとまずいことになったかなと思いつつ、急いでパッキングしていると、後方から人の気配を感じました。恐るおそる、チラッと見ると、迷彩色の服を身にまとった4人が自動小銃を小脇に抱え、近づいてくる。背筋が凍るような緊張感に襲われながらも、まさかいきなりズドンはないだろうとパッキングを続けました。察しの通り、軍隊の敷地内に降りてしまったのです。結果としては、お咎めもなく事なき終えたようですが…。と、極端な話ですが、とんでもない失敗例ですね。

「飛ばない人」の身になってみる

クロカンにいそしむ方々は、こんな失敗はしないでしょが、意外と気づかない落とし穴もあります。飛んでいることはもちろん、場外着陸といったことは、フライヤーだったらそれほど驚きません。自分がフライトをしているのに、いちいち飛ぶことに驚いていたなら、それはそれでアブナイです。指定地以外の着陸にしても、広くて障害物がなければ、降りることはそれほど難しいことではありません。ですが、「山チンさえも」あー、やっちゃったね」程度ではないですか？知っていれば驚かないけれど、知らないことには驚くものです。一般の人が、山チンを見ればそれは墜落ですし、町の上空を低い高度で飛んでいるのを見れば驚きます。自分はグライドパスで着陸地点を予想していても、地上から見ればそんなことは知る由もない。当然、高速道路を低空で横切れば、運転者は驚きます。それがきっかけで事故が起きたら…。

一般的にマナーやモラル、常識とは言っても、人により様々な認識で、その深さや奥行きも個人によって違います。フライヤー同士なら理解できて、一般の人には理解できないことはたくさんあるはず。「家の上空をハエみたいにうろうろしよって！」と目くじらをたてる人だって珍しくはないはず。

クロカンでは、スカイスポーツを知ら

ない人々との接点が、知らず知らずのうちに発生していることを忘れないください。クロスカントリーパイロットは、一般の人とスカイスポーツを結ぶ親善大使なのです。ちょっといきすぎた表現かもしれませんが、そういった自覚があれば、トラブルはそれほど起きるとは思えません。休耕田でも、そこは他人の土地。地主を捜してあいさつすることは、クロカンにはつきものと考えてください。対話を持つことで、素敵な出会いもあるかもしれませんよ。

操作技術や気象の知識はもちろんのこと、飛行先の局地的な気象の特徴、天候の変化、飛行経路上の着陸場所の有無、広さ、地形、様々な情報と綿密な飛行計画、これらの準備と気象条件が一致して、はじめてクロカンの楽しさを味わうことができるのです。

もちろんそれには、様々な緊急事態に対応できる、多くの引き出しを持っていなければなりません。風任せで飛んで行くだけなら、タンポポと一緒にです。やみくもにクロカンに出るよりは、ある程度の距離飛行をして、夕暮れ時のラストサーマルでエリアに再び戻ってくる。なんて飛び方もカッコイイと思います。それには相当な能力が必要なはずですから。

春は特に気象が急変しやすい季節です。クロカンだけに固執せず、気持ちの良いフライトを存分に楽しんでください。

[JHF広報出版部 松原正幸]

運用限界について

JHF安全性委員会 阿部 郁重

ここに「日本陸軍航空秘話」という本があります。この中で旧陸軍飛行師団参謀の猿渡篤孝氏は、陸軍航空発足当時の事情を以下のように述べています。

「大正2年、木村・徳田両中尉の殉職以来のたび重なる事故で、将校のパイロット志願者は漸減した。当初、志願者が全国で86名、採用5名であったが、大正7年頃には志願者41名で採用20名、ついで志願者31名で採用30名となり、大正8年以降は下士官から採用を始めることになった。」

今日、航空自衛隊でも陸上自衛隊航空部隊でも墜落死亡事故のニュースを聞くことはほとんどありません。最近のジェット戦闘機の訓練では、両手の指をピアノのように使うといひます。また昨年12月6日、私は航空ジャーナリスト協会のメンバーと共に三重県明野の陸上自衛隊航空学校を見学してきました。そこではOH-6ヘリコプター6機が、朝から晩ま

で昼休み時間を除いて休みなく場周飛行を続け、エンジン停止時の着陸操作を繰り返し練習していました。そこでも墜落死亡事故はほとんどないということでした。

大正2年といえは1913年ですので、この90年間に航空の安全性はここまで進歩してきました。この間、人々は発生した事故から教訓を学び、再びそれを繰り返さないように努力した結果であることは容易に理解できるでしょう。

地球に引力がある以上、空中を飛んでいれば落ちる可能性はいつでもあるわけです。そこで航空機のメーカーはどこまで安全に飛べるかの範囲をテストで確認し、必ずその範囲内で飛んでくださいという「運用限界」を決め、パイロットはそれを守ってきました。

ハンググライディングが日本に入ってきた当初から、日本ハンググライディン

グ委員会(JHFの前身にあたる)では製造基準の中で、テストで確認された「運用限界」を明らかにし、「取扱説明書」に明記すると共に機材にも容易に消えない方法で表示するよう規定しました。またスクール等においてもその重要性が理解されるよう努めてきました。

その後パラグライダーが輸入、販売されるようになってからもこの考え方に変わりはなく、運用限界としてパイロットの最大重量と最小重量、最大許容風速、許容される運動操作(マニューバ)と曲技の種類、その機材操縦に必要とされるパイロットのレーティング、そしてトーイングまたは動力飛行の可否といった内容を明示するよう規定し、型式登録の審査時にチェックしてきました。

私たちは航空100年の歴史の中で学んだこの知恵を大切に受け継いでいきたいものです。

2002年事故概要

昨年JHFに報告された事故(一部を除く)を安全性委員会がまとめた。総件数43件(死亡11件、重傷18件/20名、中/軽傷14件/15名)。これらの事故を教訓として、あらためて我が身の「安全」を守るため何に注意すべきかを考えてほしい。

略号：HG：ハンググライダー、PG：パラグライダー、Pw：補助動力付、†：死亡事故
：発生日時 発生場所 気象状況
：事故者 事故状況 経過

【No.1】PG+PG

1月6日(火)11:50頃 静岡県田方郡函南町 天候=晴、風速=? A 29歳、女、PG-P証、飛行歴=6年8ヶ月 B 64歳、男、PG-P証、飛行歴=5年7ヶ月 空中接触し絡み合ったまま落下、Aは頭蓋骨折、脳挫傷、重傷。Bは腰骨骨折、重傷。当時エリアでは25~30機のPGが飛行中であったが、空中接触にいたる経過は不詳。

【No.2】PG

1月14日(月)14:30頃 埼玉県比企郡小川町仙元山エリア 天候=晴、風速=? 39歳、男、PG-P証、飛行歴=10年7ヶ月 着陸進入中に墜落。第12胸椎、第1腰椎圧迫骨折、尾骨骨折、重傷3ヶ月。ダストデヴィルに遭遇、操縦の自由を失い、高度12~13mから落下。

【No.3】PG†

2月11日(月・祭)13:30頃 茨城県西茨城郡岩瀬町高峰エリア 天候=晴、風速=? 48歳、男、PG-XP証、飛行歴=6年1ヶ月 着陸進入時に突風を受け、高度約20mから落下。骨折、肺挫傷。死亡(呼吸不全)。最終旋回時に翼が潰れ、スピンに入って墜落。

【No.4】PG†

2月16日(土)12:15頃 鹿児島県肝属郡根占町西原台 天候=快晴、風速=3~5m/s。 44歳、男、PG-A級、飛行歴=6ヶ月 離陸が成功せぬまま、山の斜面を転がり舗装道路に転落。頭部損傷、重体。2日後に死亡。一旦は離陸したが、ハーネスが地面と接触したためキャノピーが不安定となり、再離陸を試みたが失敗。

【No.5】PG

2月?日(上旬とのみ報告)午前 北海道上川郡朝日町朝日スキー場エリア 天候=曇、風速=? 52歳、男、PG-P証、飛行歴=8年 離陸直後に斜面へ激突。腰骨骨折、中傷。キャノピーが3分の2潰れ失速。

【No.6】Pw.HG†

3月10日(日)14:04頃 茨城県東茨城郡大洗町 天候=晴、風速=2m/s。 39歳、男、HG-PW証、飛行歴=20年 旋回から回復せず地上の自動車に衝突。胸部大動脈損傷、死亡。高度150mで飛行中、左舷への傾きを修正したところ右旋回に入り、

2.5回転して駐車していた車の前部フェンダーで胸部を強打。

【No.7】PG

3月17日(日)11:30頃 北海道旭川市タカ市民スキー場 天候=曇、風速=1m/s。 32歳、男、PG-B級、飛行歴=2年 失速後ゆるいツイストに入り雪上に落下。背中を打撲、軽傷。練習課題「ストールポイントの確認」を試技中に、高度50mで失速状態となって潰れが発生。

【No.8】PG

3月17日(日)13:30頃 埼玉県比企郡都幾川村彩の国こまちエリア 天候=晴、風速=1~4m/s。 21歳、女、PG-NP証、飛行歴=2年 飛行中に片翼が潰れて回転落下。脳内出血、肺部軽損傷、重傷。高度100mで回転に入り、回復せぬまま落下。

【No.9】HG(リジッド)†

4月3日(水)15:13頃 福島県田村郡滝根町仙台平エリア 天候=晴、風速=3~5m/s。 47歳、男、HG-XC証、飛行歴=15年、500時間 右翼が立木に接触し落下。頭蓋骨多発骨折/脳挫傷、死亡。約2時間の飛行後着陸場に向う途中、尾根越えが不可能となり緊急着陸を試みたが、杉の木に右翼を引っ掛け道路に落下。

【No.10】PG

4月6日(土)12:00頃 埼玉県秩父郡長瀬町野上 天候=晴、風速=4m/s。 32歳、男、PG-P証、飛行歴=9年 着陸進入時に失速。左足骨折、重傷。風が荒れ気味だったため、ブレークコードを押えすぎて失速、駐車場の車の上に墜落。

【No.11】PG

4月14日(日)13:30頃 山梨県南都留郡河口湖町 天候=晴、風速=4m/s。 48歳、男、PG-P証、飛行歴=13年8ヶ月 翼端が樹木に接触。重傷4ヶ月。山際を飛行中に潰れが発生、樹木に引っかかった。事故者はこの日が約2ヶ月ぶりの飛行で、フルリリースで飛んでいた。

【No.12】PG

4月26日(金)時刻不詳 鹿児島県始良郡吉松町魚野エリア 天候=曇、風速=4m/s。 59歳、男、PG-B級、飛行歴=1年 接地時に転倒。足関節骨折、中傷。左足をハーネスの下に入れた状態で着陸進入し、そのまま接地。

【No.13】Pw.PG

5月12日(日)13:15頃 群馬県新田郡尾島町利根川河川敷 天候=晴、風速=5m/s。 54歳、男、PG-NP証、飛行歴=8年2ヶ月 右翼が潰れ落下。頸部・顔面打撲、軽傷。橋に沿って飛行中、橋越えの乱気流に遭遇、高度約25mから落下。

【No.14】PG†

5月25日(土)13:15頃 静岡県田方郡函南町丹那エリア 天候=晴、風速=4m/s。(サーマルコンディション) 48歳、男、

PG-XC証、飛行歴=約11年 翼の潰れにより墜落、死亡。離陸後まもなく片翼が2分の1ほど潰れ、高度7~8mから2回転して落下。

【No.15】HG†

6月2日(日)14:00頃 新潟県三島郡寺泊町弥彦エリア 天候=晴、風速=5~7m/s。 55歳、男、HG-B級、飛行歴=約22年 山の斜面に激突。死亡。約1時間の飛行後、ランディングへ向かう途中で視界から消え、無線も途絶。標高355mの道路脇コンクリート斜面に墜落しているのを発見された(事故の直接目撃者なし)。

【No.16】PG†

6月8日(土)11:40頃 仙台市泉区泉が岳エリア 天候=晴、風速=4m/s。(サーマルブロー) 56歳、男、PG-P証、飛行歴=7年11ヶ月 テイクオフ前方30mの斜面に激突。骨盤骨折、胸部骨折、出血多量、死亡。離陸直後に左翼が半分潰れ1回転し、一旦は回復しかかったが、さらに右翼が潰れ右に回転しながら斜面に激突。

【No.17】PG

6月8日(土)14:00頃 福井県勝山市スキー場勝山エリア 天候=晴、風速=3m/s(安定) 66歳、男、PG-P証、飛行歴=9年6ヶ月 ストール落下。胸椎・鎖骨骨折、重傷。離陸時に左右のブレークコードを引きすぎて失速、高度不足で回復できぬまま斜面に落下。

【No.18】PG

6月8日(土)16:10頃 長野県下高井郡木島平村 天候=晴、風速=5~6m/s。 57歳、男、PG-P証、飛行歴=9年 地上で転倒。右手首・頸部を負傷、中傷。キャノピー立ち上げ練習中の事故。

【No.19】HG

6月22日(土)13:00頃 山口県豊浦郡豊田町嵩山エリア 天候=晴、風速=4~5m/s。 20歳、男、HG-C級、飛行歴=2年 着陸時にベースバーが接地しクラッシュ。肋骨骨折、重傷3ヶ月。他機と同時進入となり、進路を譲ったためフレアをかけられずにショートランディング。

【No.20】Pw.PG†

7月21日(日)13:40頃 福岡県京都郡苅田町地先周防灘 天候=?、風速=? 41歳、男、PG-XC証+PG-PW証、飛行歴=7年7ヶ月 海上に着水、死亡(溺死)。

キャノピーを装着したまま浮いているのを釣り人により発見された。事故者は常に単独で飛行しており、当日も同行者は居なかったため、事故に至る詳細は不明。また、機材がJHFの規定する補助動力機に該当するものか否かも不詳。

【No.21】PG

7月23日(火)11:00頃 長野県北安曇郡白馬村スカイステージアルプエリア 天候=晴/曇、風速=1~3m/s。 42歳、男、

2002年12月31日現在 安全性委員会作成

PG-XC証、飛行歴=8年 高度10mから失速落下。腕を骨折、重傷。着陸進入中、電線を避けようと急激な操作を行ったため、フラットスピに入った。

【No.22】PG

8月11日(日)11:30頃 新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア 天候=晴、風速=5~8m/s。55歳、男、PG-P証、飛行歴=3年 落下着陸。腰椎圧迫骨折、中傷。着陸直前に左翼端が3分の2潰れ、着座姿勢のまま接地。

【No.23】PG

8月11日(日)15:30頃 石川県石川郡鶴来町獅子吼高原エリア 天候=晴、風速=3m/s。43歳、男、PG-NP証、飛行歴=2年 ツリーランディング後地上に落下。第3腰椎圧迫骨折、重傷。ソアリング中にサーマルから外れ樹上に降下したが、枝がパイロットの体重を支えきれなかった。

【No.24】PG

8月14日(水)16:00頃 愛知県北設楽郡稲武町池の平エリア 天候=晴、風速=?。51歳、男、PG-A級、飛行歴=0.5年 ラフランディング、中傷(部位不明)。ブレークコードを引かずに接地。

【No.25】PG

8月16日(金)11:20頃 岡山県阿哲郡大佐町大佐山エリア 天候=晴、風速=3m/s。46歳、男、PG-P証、飛行歴=8年 ハードランディング、左下腿開放骨折、重傷。最終旋回時の高度が低すぎ舗装面に接触。

【No.26】PG

8月18日(水)10:20頃 新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア 天候=晴、風速=2m/s。35歳、男、PG-B級、飛行歴=3ヶ月 落下着陸。腰椎圧迫骨折、中傷。風が不安定だったため着陸操作がうまくいかず、着座姿勢のまま接地。

【No.27】Pw.PG(新聞報道のみ)

8月21日(水)時刻不詳 茨城県稲敷郡東町 天候=?、風速=?。51歳、男、技能証? 休耕田に墜落。重傷(3ヶ月)。離着陸の練習中、着陸時に地上高3mで翼が潰れ落下。機材がJHFの規定する補助動力機に該当するか否かも不詳。

【No.28】PG

8月25日(日)13:50頃 新潟県中頸城郡吉川町尾神岳エリア 天候=晴、風速=4m/s。48歳、女、PG-P証、飛行歴=7年 背風接地。右膝骨折、中傷。離陸直後に片翼が潰れて旋回し、追い風での進入となって地上に激突。

【No.29】Pw.PG+(新聞報道のみ)

8月25日(日)14:40頃 埼玉県行田市須賀利根川河川敷 天候=?、風速=?。71歳、男、技能証なし 川に着水。死亡。河川敷から離陸したものと思われるが、事故に至る詳細は不明。また、機材がJHFの

規定する補助動力機に該当するか否かも不詳。

【No.30】PG

8月31日(日)14:00頃 北海道川上郡弟子屈町美幌峠エリア 天候=曇、風速=3~4m/s。20歳、男、PG-B級 左翼が潰れ斜面に墜落。腰椎左棘突起骨折、重傷。

リッジソアリング中に右旋回で左翼の40~50%が潰れ、半回転して落下。パイロットは臀部から接地、強い前屈姿勢となり前転した。

【No.31】PG

9月1日(日)11:20頃 長野県下高井郡木島平村木島平エリア 天候=快晴、風速=2~4m/s。52歳、女、PG-P証、飛行歴=5年 不本意離陸で後退飛行し斜面に衝突。左足踵骨折、中傷。立上げの練習中に浮いてしまい、後退しながら上昇。翼端を折ったところ旋回に入ってしまった。

【No.32】PG

9月1日(日)14:00頃 岡山県玉野市王子ヶ岳エリア 天候=曇、風速=5~6m/s。54歳、男、PG-NP証、飛行歴=8年 不本意離陸で後退飛行し斜面に衝突。腰椎(4番)圧迫骨折、重傷。キャノピー立ち上げの直後に突風を受け浮上、後退しながら2mほど上昇。操縦不能のまま後向きに斜面へ衝突(エアバッグは膨らまなかった)。

【No.33】PG+PG

9月1日(日)13:30頃 茨城県新治郡八郷町 天候=晴、風速=4m/s。A)55歳、女、PG-NP証、飛行歴=1年 B)32歳、男、PG-A級、飛行歴=- 空中接触し絡み合ったまま落下、A)は頸部・腰・下肢打撲、軽傷。B)は肋骨骨折、中傷。リッジソアリング中のA)と、離陸直後のB)が正面衝突。双方とも旋回中あるいは旋回直後であった。

【No.34】PG

9月15日(日)11:20頃 北海道上川郡比布町比布スキー場エリア 天候=快晴、風速=2m/s。39歳、男、PG-A級、飛行歴=8ヶ月 立木に衝突。腰椎粉碎骨折、重傷。S字飛行中にサーマルの吹上げを受けて10mほど上昇、林に突入。

【No.35】PG+

9月15日(日)13:15頃 兵庫県朝来郡朝来町さのう高原エリア 天候=曇、風速=1m/s。47歳、男、PG-P証、飛行歴=15年 両翼端が折れライザーがツイストし、100mほど落下して急旋回に入り田圃に落下。頸部・肺損傷、4時間後に死亡。高度100mでフラットスピに入り3~4回転した後、翼端折れが発生し後退飛行となる。ライザーのツイストによってパイロットは後向きとなり、そのままダイブから急旋回に入って墜落。

【No.36】Pw.PG+

9月19日(木)16:22頃 茨城県東茨城郡

茨城町 天候=曇、風速=5.5m/s。65歳、男、技能証なし、飛行歴6ヶ月 水田に墜落。外傷性胸部大動脈破裂、死亡。

単独行のため目撃者はなく、事故に至る経過は不明。事故者は中古機を購入し、独学で飛行していた。

【No.37】HG

9月21日(土)13:50頃 茨城県下館市 天候=晴、風速=?。37歳、女、PG-XC証、飛行歴10年 送電線に接触し墜落。左足帯損傷、鎖骨剥離、軽傷。競技中。目測を誤り、送電線の近くで高度処理を行い接触、機体中破。

【No.38】Pw.PG

9月29日(日)14:00頃 茨城県真壁郡関城町鬼怒川河川敷 天候=?、風速=?。35歳、男、PG-B級、飛行歴=3年 送電線の鉄塔に宙吊りとなる。肋骨骨折等、中傷・3週間。競技中。乱気流によってコースを外され、鉄塔の中央部(地上高約40m)に衝突。送電停止には至らず、2時間15分後レスキュー隊により救出。

【No.39】PG

10月5日(土)11:00頃 愛知県北設楽郡稲武町池の平エリア 天候=晴、風速=2m/s。58歳、男、PG-XC証、飛行歴>10年 スピンに入り墜落。顔面、左肩打撲、中傷。左翼端が潰れ、修正操作がスピンを誘発。

【No.40】Pw.PG+Pw.PG(新聞報道のみ)

11月11日(月)15:35頃 埼玉県大里郡大里町荒川河川敷 天候=?、風速=?。A)56歳、男、技能証=?、飛行歴=?。B)55歳、男、技能証=?、飛行歴=? 空中接触し墜落。A)は胸部強打、重傷。B)は腰骨骨折、重傷。離陸直後の2機が高度30mで衝突し、畑に墜落。

【No.41】PG

11月16日(土)10:30頃 愛知県北設楽郡稲武町池の平エリア 天候=晴、風速=1m/s。51歳、男、PG-NP証、飛行歴4ヶ月 道路橋の側壁に衝突。重傷(部位不明)。ランディングアプローチを誤認。

【No.42】PG

11月17日(日)16:15頃 沖縄県島尻郡前川スクール場 天候=曇、風速=5~8m/s。37歳、男、PG-B級、飛行歴=4年 旋転落下。肋骨骨折、重傷。8の字飛行中に右翼が潰れ旋転に入り、高度10mから斜面に落下。

【No.43】PG

11月17日(日)10:20頃 茨城県新治郡八郷町足尾山エリア 天候=曇、風速=3m/s。53歳、男、PG-B級、飛行歴=- 接地に失敗。左足首骨折、重傷。弱い下降風に入ったため降下速度が増加、充分なフレアをかけられずに接地し、左足首を外側に捻る。

県連ニュース

埼玉県ハング・パラグライディング連盟
 [県連主催フライヤー親睦会に参加を]
 以下のとおり、埼玉県連主催のフライヤー親睦会を行います。お気軽にご参加ください。

日 時:2003年3月9日(日)
 午前9時30分(雨天延期) 集合場所:埼玉県小川町仙元山エリア
 募集人員:先着40名(受け入れ態勢の見地から事前申し込み制です)
 会 費:埼玉県連正会員・賛助会員500円
 フライヤー登録埼玉県内居住者は1000円 その他1500円
 (当日入会を受け付けます)

内 容:
 テイクオフとランディング見学
 バーベキュー等の食事会
 パイロットは当日のフリーフライト可
 その他
 問い合わせは県連事務局まで。

埼玉県ハング・パラグライディング連盟
 事務局 〒336-0017埼玉県さいたま市南浦和3-33-14-2F ジェネス内
 TEL.048-882-2730 FAX.048-882-2517

E-mail:info@genese.co.jp
 仙元山エリアホームページ:
<http://www.aho-dori.com/>
 埼玉県連ホームページ:
<http://www.saitama-hpf.com>

山口県ハング・パラグライディング連盟
 [PG体験講習会の報告]

11月9日から24日までの毎週末、橋町嵩山エリアの講習施設「橋ウインドパーク」においてパラグライダーの体験講習会を開催しました。

今回の講習会は、橋ウインドパークを核として、スポーツを通じて新しいコミュニティづくりにつなげ、地域の活性化

化を図るといった主旨で、橋町の主催によるものです。講習会の宣伝、運営等は橋町から多大なバックアップもあり、6日間で250名の参加者にもかかわらず、フライヤーは指導に専念することができました。その日のコンディションで、15mの斜面から滑空できた人、マントーイングによって1m弱地面から足が離れただけの人と講習者にとって運不運はあったものの、みんな初めての体験で、興奮と感動に目を輝かしていました。参加者にとって忘れられない一日になったことでしょう。また、この講習会を通じてスカイスポーツの魅力が少しでも一般社会にも浸透していくことを願っています。

愛媛県ハンググライディング連盟
 [サンタが空からやってきた]

2002年12月23日、双海シーサイド公園(双海エリアランディング場)での恒例クリスマスイベントに1400人余りの親子連れが集まった。サーマルコンディションの上空をソアリングするサンタ3人とトナカイ1匹。

小さい子供達は「サンタさんほんとに飛んでる」と、目がキラキラ。ハイテンションなサンタはスパイラル降下でみんなにプレゼントを渡しました。

[番外編]
 徳島県ハンググライディング連盟の棕



一番人気の双海サンタは.....

本清治氏に四国4県共通の掲示板をインターネット上に作っていただきました。四国内外フライヤーの情報、意見交換の場として、どしどしご活用ください。

<http://www.skyfreak.net/shikoku/>
 [記:森 達也]

沖縄県ハング・パラグライディング連盟
 [エリア維持協力をお願い]

全国フライヤーの皆さん、沖縄はシーズンオフがなく、その季節なりの風を楽しみフライトができます。冬場にエリアクローズしている皆さん、ストレス解消には沖縄しかありません。さあ、休暇をとって沖縄に来てください。

当連盟の管理するエリアは、嘉陽エリア、天仁屋エリア、与那原エリアの3カ所あります。これらのエリアの維持管理は県連会員がボランティアで行い、整備費用を会員持ち出しで整備をしておりますが、財政が厳しく思うように整備できません。そこで、ピジターの方より県連エリア使用につき1日500円を維持管理協力金として県連に納めていただくことに理事会にて決議しました。

県連ではより良いエリア環境を構築し、より安全に、より楽しくフライトできるよう努力していきます。

(エスコート料プラス500円をエスコートするショップにお支払いください。後日ショップより県連に納付されます。)

県連エリア維持協力金の主旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

またご意見、問い合わせは県連、エスコートショップへご連絡ください。
 沖縄県ハング・パラグライディング連盟
 TEL.098-879-5138 理事長 小島勝廣

カレンダー

[場] は開催地、[連] は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

冬季サルオプサルズ2003in足尾(HG)
 2月25日・26日 [場] 茨城県新治郡八郷町足尾山エリア [連] 佐藤史宏
 TEL.090-2479-1209 参加は学生のみ
 第7回HG学生選手権IN紀ノ川
 3月4日～6日 [場] 和歌山県那賀郡紀ノ川フライトパーク [連] 大会事務局
 野口和基 TEL.090-7398-9519
 2002年度JHF3月通常総会
 3月11日 [場] 東京都羽田空港ビッグパード [連] JHF事務局 TEL.03-5840-8311
 パラフェスタ2003 in 足尾
 3月18日～21日 [場] 茨城県新治郡八郷

町足尾山エリア [連] 藪友貴
 TEL.090-9955-6395
 E-mail:tomotaka_yabu@hotmail.com
 2003板敷スプリングフライト(HG)
 3月19日～23日 [場] 茨城県八郷町板敷山エリア [連] 大沢豊 FAX.0299-44-1346
 E-mail:haku89@dream.com
 '03ジャパンカップCoo(PG)
 3月21日・22日 [場] 茨城県八郷町エアパークCoo [連] 大会実行委員会
 TEL.0299-44-1408(エアパークCoo内)
 2003パラグライディングワールドカップ
 茨城 (FAIカテゴリー2大会)

3月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21 <small>香分の日</small>	22	23
24 <small>31</small>	25	26	27	28	29	30

4月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29 <small>あどりの日</small>	30				

3月24日～30日 [場] 茨城県八郷町
 [連] PWC茨城実行委員会
 TEL.0299-44-1408(エアパークCoo内)

大会の最新情報は、JHFホームページに掲載しています。

ドイツ・フランスの組織

DHV・FFVL海外調査研究の報告

関谷暢人 (JHF常任理事)・小林秀敏 (JHF制度委員長・福岡県連盟理事長)

昨年末、ドイツDHVとフランスFFVL、両連盟を訪問し海外調査研究を行いました。今回は特に両国の組織の在り方に焦点を絞った調査です。JHFの将来を考えると重要なヒントになるでしょう。

日程

9日:成田集合出発 同日ミュンヘン着
10日・11日:DHV訪問

Klaus Tanzler氏 (事務所長)と、DHVとJHF組織の概要を説明し合う。

Hannes Weininger氏 (技術部調査研究長)より、技術関連説明。

Karl Slezak氏 (安全事故調査部)より、安全関連説明。荷重試験場訪問、ショックテスト・荷重テスト見学。

12日・13日:ニースのFFVL訪問

Gerard Blandin氏 (会長)と、FFVLとJHF組織の概要を説明し合う。

14日:ハンググライディングエリア訪問
15日:移動 16日:成田着

運輸省の代行業務を行うDHV

ドイツではハンググライダー・パラグライダーは航空機同様に見なされ、ライセンス・エリア・機材認定等すべてが法律下にある。運輸省の代行としてDHVが認定・許可業務を行っているため、すべてにおいて強制力を持ち管理しやすい。組織の中立を保つため、関係営利企業の役員・職員は総会・役員会構成員になれない。連盟全体はボランティアにより構成されているものの、実務を司る事務局は14名の有給職員が業務を行っている。

運営には政府からの補助金はなく、すべてDHV独自の収入でまかなわれており、会費と機材テスト費用が主な収入源。

全体組織に地方組織 (5ブロック)があり、170名のメンバーを選出するが、総会に対して意見を出すための組織ではなく、代議委員選出と会員コミュニケーションを目的としている。

会報誌は「DHV - Info」を隔月発行。35,000部を製作・配布している。1冊の価格は1.5ユーロ。

ライセンス発行・エリア許可・スクール許可は、運輸省から委託を受けている。インストラクターは2年に一度の学科・実技検定を受けなくてはならない。

DHVとして最も重要な普及活動が「安全なスポーツという認識を社会へアピールすること」とし、安全対策は最優先事業と捉えている。事故報告は法的に義務付けられており、事故調査、事故機材の検査、安全対策を講じ、会報誌・WEB、そしてマスコミに情報を提供している。

フランスのスクールは国の認定も必要フランスFFVLでは、ハング・パラだけでなく、組織基盤補強のため数年前からスポーツカイト・カイトサーフも管理している。組織全体は日本と同様にボランティア要素が高く、事務局の3名の有給職員が実務のみを行い、普及発展・安全啓蒙活動はボランティアに頼っている。

総会は520名のクラブ代表者により構成され、25名の理事が選出される。関係営

利企業人は、会長・副会長・事務局長・経理担当にはなれないが、他の理事に制限はない。また、22の行政ブロック組織があり、普及発展活動に関与している。

会費・第三者賠償責任保険料・国の補助金を主な収入源に運営される。

特記事項として、フランスでは日本と同様にハング・パラ共に法的定めがない。しかし、指導と保険については強制力を持ちつつ「フリーフライト精神」を尊重。機体登録などの規制はなく、自己責任を前提とするが、安全管理面においては、スクールは国の認定と連盟の認可を必要とし、2年～3年おきにスポーツ省から8名の指導員 (国家公務員) がエリアを訪問し安全啓蒙活動を行っている。

エリアは地域クラブが管理しているが、連盟が維持費の1300万円を負担し、どのエリアでも無料で飛べる。また、民間地図業者やスポンサーと提携して国内のエリア地図を作成。約600のエリアの連絡先等を記し、国内外に情報提供している。連盟が約10ヶ所のエリアを買取り、さらに40ヶ所に気象観測装置を取付けて情報を提供、会員にサービスしている。

簡略な技能証

両連盟ともに技能証は簡略化しており、練習生・パイロット・クロスカントリー・バイプレイス (タンデム)・インストラクターの5種。尚、エンジン付きのハンググライダー・パラグライダーは、両連盟とも管理していない。

三国比較表 (2001年)		日本 (JHF)	ドイツ (DHV)	フランス (FFVL)
人口	国人口	127,000,000人	81,000,000人	60,400,000人
	会員数	22,000人	31,000人	39,000人
	会員の人口に占める割合	0.0173%	0.0383%	0.0646%
会員	登録種別	正会員 フライヤー会員 賛助会員	クラブ所属会員 無所属会員	普通会員 普通会員 (21歳以下) アマチュアタンデム会員 アマチュアインストラクター会員 プロタンデム会員 プロインストラクター会員 他
財源	主な財源	会費 保険代行手数料 賛助会費 諸助金	会費 保険代行手数料 広告収入 オリジナルグッズ DHV機材テスト	会費 保険代行手数料 広告収入 オリジナルグッズ 国家補助金
収入 (円)	年間収入	130,000,000	340,000,000	285,000,000
	会費収入	88,000,000	220,000,000	103,000,000
	その他収入	42,000,000	120,000,000	182,000,000
	年間収入÷会員数	5,909	10,968	7,308
	会費収入÷会員数	4,000	7,097	2,641
会費内訳	会費に含まれるもの	年会費 第三者損害賠償保険 会報誌	年会費 第三者損害賠償保険 会報誌 保険はオプションあり	年会費 第三者損害賠償保険 (会報誌は別途オプション) 保険はオプションあり
総会	構成員数	47名	170名	520名
	構成員	47都道府県連盟	5ブロック代表者	22ブロック代表者
	選出方法	都道府県連盟総会	ブロック総会	ブロック総会
会長	人数決定		比例配分	比例配分
	選出方法	理事会互選	総会選挙	総会選挙
理事会	構成員数	11名	7名	25名
	理事資格	関係営利企業役員以外の会員	関係営利企業職員以外の会員	会員 但し会長・副会長・事務局長・経理担当は関係営利企業人以外
事務局員 (有給職員)	選出方法	立候補 総会選挙	立候補 総会選挙	立候補 総会選挙
	数 (パートを含む)	4名	14名	7名
組織	ボランティア会員	ボランティア会員	有給職員	ボランティア会員
	事務局 (有給)	事務局 (有給) 安全性委員会 HG/PG競技委員会 教習検定委員会 制度委員会 補助動力委員会 広報出版局	管理・経理部門 テクニカル部門 国家認定ライセンス発行部門 事故分析・保険部門 会員サービス部門 競技部門 広報・出版・WEB部門	事務局 (有給) 競技部門 地方連盟部門 スクール部門 EUエアースポーツ&CML部門 エアースペース部門 研究室 組織部門 ハイレベル競技者部門 ホームページ部門 安全対策部門 コミュニケーション部門 少年部門 医学部門
地方組織	数	47行政区	5ブロック	22行政区 (一部行政区外を含む)
	構成員	個人会員	クラブ+個人会員	クラブ員
	会費	独自会費+連盟補助金	なし	連盟補助金
	活動	総会や独自事業の展開	代表者の選出のみ	総会や独自事業の展開

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

12月19日理事会

2002年12月19日(木)13時～17時 JHF事務局会議室
出席:朝日と博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、田中美由喜、長谷川光雄、藤野光一、松永文也、宮川一郎各理事 欠席:横尾和彦、宮田富由各理事、宮川雅博監事(出席理事9名、定足数を満たし成立) 議長:藤野光一

審議1:「JHFにおける規定の作成管理要領」の改定について

今期理事会で決議された標記要領について改定の上程があった。

・第3条に使われている「開示」と、第4条に使われている「公示」とがあり、統一性が欠ける。

・第4条において「理事会が重要と判断した場合は」とあるが、上記、第3条に逸脱しており、公開の原則に違反しているので、削除すべきである。

審議の結果、第8条に公示の定義を追加することで、次回理事会にて再度審議する。

審議2:3月総会で全理事・監事が辞任届を提出することについて

3月総会では「役員選挙」が行われることになっている。しかし現役員は、2001年6月総会で選出されているため、任期サイクルがずれている。現役員の任期は「2003年6月19日(もしくは20日)」までとなっているが、従前通り3月総会での選挙及び任期に反するため、2003年3月11日開催の通常総会において、全理事監事の辞任を総会にはかることにつき審議。上程案の形で法務局へ確認し、次回理事会にて再度審議する。

審議3:賛助会員の承認について

11月に「三晶株式会社」より賛助会員の入会申込みがあった。同社は携帯帯減信号機を販売する、産業用機械の輸入会社。文書理事会にて採決済みだが、再度審議。採決の結果、全員一致で可決した。

審議4:2003年PGジャパンリーグ新システムについて
もっと多くのパイロットに競技の素晴らしさや楽しさを知ってもらい、大会に参加してもらうことを目的として、ジャパンリーグ内にオープンクラスとシリアルクラスを設け、同タスク、同タイムで競技を行い、それぞれ別々に順位をつける。一つの枠の中で別のクラスでの競技を同時に行うことを目的としている。

オープンクラス:すべてのライダー
すべてのジャパンリーグ登録者で競技を行い、従来通りの得点計算を行う。
シリアルクラス:プロト登録を行っていないライダーに限定する。

採決の結果、賛成7、反対1で可決した。

審議5:PG公認大会ルール変更願いについて

2002年度公認大会ルールにおいて変更願いが出され、変更案について審議。採決の結果、全員一致で可決した。変更後のルールは2003年に採用される。

審議6:2003年PG日本選手権in白馬アルプスの開催承認について

PG競技委員会により、2003年度パラグライディング日本選手権開催地決定の申請があった。文書理事会にて採決済みだが、再度審議。採決の結果、全員一致で可決した。

審議7:2003年JHF事業計画及び予算案について

11月理事会審議結果を受けて、11月27日に理事会予算修正案を常設委員会・広報出版部に検討依頼をした。PG競技委員会と広報出版部は増額申請が出ており、赤字予算となったため、予算再調整が必要。現状として会員の減少等を考えた上で、大幅な予算変更を考えなければならない。各県連事業費も都道府県連盟に事業案を出してもらい、それに見合った予算分配を考えなくてはならないのではないかと、都道府県連盟補助事業費を前年度と同額とする。

・広報出版部の増額分を認める。

・PG競技委員会の世界選手権派遣費は350万円とする。

・残額は予備費にする。

採決の結果、全員一致で可決した。

審議8:2004年ハンググライディング女子・クラス2 & クラス5世界選手権の開催について

茨城県ハンググライディング連盟理事長より2004年ハンググライディング女子・クラス2&クラス5世界選手権の開催要望が提出された。JHFとしては大会を承認し、協力するという事で審議。採決の結果、全員一致で可決した。

1月23日理事会

2003年1月23日(木)13時30分～17時 JHF事務局会議室
出席:朝日と博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、長谷川光雄、藤野光一、松永文也、宮川一郎、宮田富由各理事、宮川雅博監事 欠席:横尾和彦、田中美由喜各理事(出席理事9名、定足数を満たし成立) 議長:松永文也

審議1:JHF2003年度事業計画及び予算計画(案)について
正会員に代案を求めたが、代案が寄せられなかった。よって、12月理事会審議案を3月11日の総会に上程することになった。採決の結果、全員一致で可決した。

審議2:3月通常総会で全理事・監事が辞任届を提出することについて

前回理事会審議において、下記の課題を確認する必要があるため継続審議となった。

- 1 理事会から「任期の変更」としての上提案を提出することも考慮する。
- 2 全員一致の確認が必要。
- 3 欠席役員(横尾理事・宮田理事・宮川監事)の内諾が必要。
- 4 法務局に確認する。

審議継続にあたり、次のことを確認した。

- ・任期については2003年6月19日までとなっている。
- ・6月の選挙選任を3月に行うことについて団体経営上必要と認められた場合は変更することに問題はない。総会で決議されればよい。

・3月選任について

現役員の辞任届が必要で、総会で承認されなければならない。辞任届がない場合は「解任」を決議しなければならない。任期期間変更などの議決は定款に抵触し、また、矛盾を生み悪しき習慣にもなりかねず、対外的にも不信感を生む。仮に、「任期変更上提案」が可決された場合、現役員は解任されることになる。一般的には「辞任」である。

・辞任届について

全役員の辞任届が必要。文部科学省に役員変更届を報告するとき退任者の辞任届を添付することになっている。現役員の任期は「2003年6月19日」まで。定款には「任期が2年」と明記されている。

採決の結果、全員一致で辞任届を提出することで可決した。

審議3:JHF定款変更(青森県HG連盟案)の総会上程について

青森県ハンググライディング連盟から、JHF定款変更の提案が出された。内容的に3月総会で可決することは困難であることが予想されるが、さらに上程に向けて青森県連盟と打ち合わせる。採決の結果、全員一致で可決した。

審議4:2002年度3月通常総会議案について

日時:2003年3月11日(火)午後1時より5時まで
場所:羽田空港ターミナルビル「ビックバード」ギャラクシーホール

- 議案:第1号議案 2003年度事業計画の決定について
- 第2号議案 2003年度収支予算の決定について
- 第3号議案 青森県連盟の定款の一部変更について
- 第4号議案 役員辞任の承認について
- 第5号議案 役員選挙による選任について
- 協議事項
- 報告事項

参考:情報交換会 10時から12時まで総会と同会場

親睦会 17時30分から19時まで

採決の結果、全員一致で可決した。

審議5:3月通常総会の業務分担について
総会当日の各業務の担当者を決定した。

審議6:「JHFにおける規定の作成管理要領」の改定について

12月理事会より継続審議。標記要領に第8条を追加し、公示の定義に閉じてうたう。採決の結果、全員一致で可決した。

審議7:JHF活性化対策についての答申(案)の総会上程について

2003年1月22日に開催された「活性化対策委員会」において、理事会より諮問された「活性化対策」の答申(案)を協議事項として総会に提出することを全員一致で可決した。

＊
理事会の決定事項ほか、最新情報をJHFホームページに掲載しています。また、議事録をご覧になりたい方は、最寄りの正会員(都道府県連盟)にご連絡ください。
JHFホームページ <http://jhf.skysports.or.jp/>

理 事 活 動 報 告

JHFの理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしています。
11月下旬から1月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

会長 朝日 と博

- ・2003年度の予算案を取りまとめ正会員にご検討をお願いしました。貴重な資金を有効に活用したいと思います。
- ・年末には常任理事と制度委員会の委員長の2名でドイツとフランスの連盟を視察に行ってくださいました。海外の団体を参考にしながらJHFの未来を考えていきたいと思ひます。報告書ができておりますので、興味のある方はご連絡ください。JHFホームページにも掲載中です。
- ・3月には総会が開催されますのでその準備をしています。ご意見のある方は所属の都道府県連盟までお願いします。

常任理事 関谷 暢人

11月20日:安全性委員会と補助動力委員会の合同会議開催に参加。モーターハンググライディング愛好者達の現状の確認と、FAIルールの確認、並びに、将来への意見交換が活発に行われました。21日:スカイスポーツシンポジウム打合せ会議参加。23日:故高円宮様への哀悼を示すために連盟代表として記帳。1993年女子HG世界選手権南陽大会出席は我々の励みになりました。29日:体力づくり国民会議に参加。12月2日:都内上空MPGフライトについて警視庁の担当

者と打合せ。MPG愛好者よ、今一度、フライトモラルを考えてほしい。規制されてからでは遅すぎるのだ! 7・8日:スカイスポーツシンポジウムに司会者として参加。フライヤー会員も是非一度見てください。参考になる話がありますよ。9日から16日:海外調査研究活動としてドイツとフランスへ。報告は別欄参照。同行した小林秀彰制度委員会委員長は完全にボランティア活動の領域を超越していました。敬服すると共に感謝します。19日:通常理事会。24日:優良スカイレージャーエリア登録された「木島平村」を表彰訪問。1月15日:安全性委員会会議参加。その他、総会の準備のため「予算編成」などを消化。

再度お願いします。これを読んでいる正会員代表者よ! 総会議長を率先して受けてほしい! 総会は正会員によるただ一つの会議であり、一人一人が責任を持っていることを自覚してほしい!!

常任理事 長谷川 光雄

前号でお知らせしたように、日本航空協会主催の航空スポーツ教室がいよいよ2月よりスタートすることに決定しました。JHFにはパラグライダー部門で協力の依頼があ

り、私が担当することになりました。開催地の正会員(都道府県連盟)の方々も協力を仰ぎ、第1回は2月8日(土)に群馬県の昭和村東小学校で実施の予定です。このスポーツ教室に使用するパラグライダーは、ジャスパラという、子供用に特別に日本航空協会が製作した機体を使用します。第1回航空スポーツ教室の詳細は次号で報告する予定です。

理事 藤野 光一

12月理事会に出席し、3月に開催される総会に向けて来年度予算案の審議を重点に行いました。また、3月総会では役員改選選挙が行われます。私たちの任期は6月までですが、イレギュラーな任期となっているため、正常に戻すために3月総会での辞任の方で検討しています。残された任期はあとわずかですが、頑張りたいと思います。

理事 松永 文也

現在、白書の発行準備に取り組んでいます。毎年発行する白書という形で最初の刊行となるので、次年度以降の良き先例となるよう、じっくりと内容を練りながら準備中です。予定通りであれば3月総会までには冊子の形になったものが出来上がる予定です。ご期待ください。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
 いつでも心は空の彼方というあなた、必読！
 もちろん寄稿も大歓迎。
 大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、
 JHFへの意見など、どしどし送ってください。
 koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

NEWS

HG ナショナルチーム内定

今年8月23日～9月7日にブラジルの首都ブラジリアで「第14回ハンググライディング世界選手権」(クラス1)が開催されます。日本はもちろんフルエントリー。HG競技委員会発表のナショナルチームは以下の皆さんです。日本チームに熱いご声援を！

チームリーダー：郷田徹

選手：大門浩二、板垣直樹、大沼浩、鈴木博司、平林和行、安東正夫

パラパーク京都エリアがオープン

この4月、京都府に新しいパラグライディングエリア「パラパーク京都」がオープンします。

パラパーク京都

パラグライダー専用(モーター付不可)

三郎が岳(山頂614m)
 テイクオフ場：標高580m
 緯度 35°04' 13.8
 経度 135°34' 05.4
 西南西向き スペースは3～4機
 ランディング場：標高110m
 緯度 35°03' 52.6
 経度 135°34' 18.9
 スペースは3反
 テイクオフ場～ランディング場
 高度差470m
 水平距離1.4km未満
 L/D 3未満
 問い合わせ先
 BIRDSパラグライダーズスクール
 チーフインストラクター 大澤行英
 TEL.090-2285-7243 TEL.090-8980-4618
 E-mail:birds@mbox.kyoto-inet.or.jp
 ホームページ
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/birds/>

みかん農家と交流

知らなかった、みかんがこんなにも爽やかだったなんて。

高山エリアで飛ぶことのある僕たちは、12月初旬、高山の麓で黄金色に輝いている、地元橋町の特産品であるみかんの収穫のお手伝いをさせていただいた。

緑の木にたわわに実った輝くみかん。普段この時期の高山から飛ぶことのない僕たちにとって、その光景は新鮮に映った。僕たちフライヤーが良いフライトをするためには、自然の仕組みを良く理解しなければいけないのと同じように、おいしいみかんを作るにも自然を良く知らなければいけないことが解り、農家との交流を通し、みかんの奥深さを知った。僕たちがいつも飛んでいる下で、おいしいみかんを作っている農家の方たちの苦勞も知り、今度高山の空の上からみかん畑を見たら今までとはまた違った景色に見えるだろう。

記：沖津康樹(山口大学スカイダスト)

タメにならない航空史-12

かつて空の旅は優雅だった

矢ヶ崎弘志

表題どおり“ためにならない話”ばかり書き連ねてきたコラムも、これが最終回となった。そこで今回は少しばかりマトモになって、今も名機として語り継がれているハンドレーページHP-42旅客機(イギリス)をとりあげよう。口直しである。

HP-42は1930年からインペリアル・エアウェイズ(英国航空の前身)のイギリス～インド、～エジプト、～南アフリカおよびヨーロッパ各地への路線に就航、鉄道の一等車にも負けない豪華な客室が売り物であった。

防音や空調も施された客室は、今の基準からすると50人は乗せられる胴体スペースに、24～38人分の座席がゆったりと配置され、ぜいたくなインテリアで飾られていた。スチュワードによる機内サービスも充実しており、食事は地上のレストランなみに、7品の温かいフルコース料理、ヨーロッパ線のような短距離でも4品のコース料理が出されていたのである。

大きさというならば、HP-42は空のオリエ

ント・エクスプレスだった。それまでの旅客機には付物だった“うるさい、せまい、油くさい”から開放された乗客は、快適な空の旅を楽しんだことだろう。

そのかわり、写真で見ると同時に保守的な支柱だらけの構造だから、スピードは遅かった。公称巡航速度160km/h、おそらく実際には150km/h程度で飛行していたと思われる。航続距離も800kmなので、インドや南アフリカまでは経路地が多く数日を要したが、それでも船便に比べればはるかに優速だったことは確かなのだ。

HP-42が航空史に名を残している理由は客室の豪華さだけではない。きわめて安全性が高く、就航開始からリタイアまでの10年間を無事故で飛び続けたのである。造られた機数は8機のみながら、総飛行距離は

1,600万キロメートルに及ぶ。これは偉大な記録であり、名機として語り継がれるのも当然なのだ。

現在は航空運賃も安くなり、20時間もあれば世界中どこへでも行ける。便利になった。しかし、1930年代の空の旅と比べると、失ったものも多そうである。

SL列車に憧れるのと同じ心理で、出来ることならHP-42に乗ってみたいという人は多い。もし実現したらどんな感想を抱くことか。

*今回でこの連載は終わります。矢ヶ崎さんの次回搭乗、もとい登場をお楽しみに。JHFホームページのe-magにも矢ヶ崎さんのコラム「航空ごちゃ混ぜ話」を掲載中。ぜひご覧ください。



空のオリエント・エクスプレス、HP-42。



大会報告

フライトインウチタメイヤーズカップ2002
2002年11月23日・24日

和歌山県那賀郡 紀ノ川フライトパーク

[総合]

1位	中村 克也	京都府	234点
2位	岡 博文	大阪府	228点
3位	矢野 孝史	大阪府	227点
4位	原田 欣直	大阪府	224点
5位	川村 展生	兵庫県	223点
6位	植田 和幸	奈良県	221点
7位	松本 貴延	和歌山県	219点
8位	林 育	大阪府	217点

[S P S]

1位	矢野 孝史	大阪府	227点
2位	植田 和幸	奈良県	221点
3位	林 育	大阪府	217点
4位	永井 敏夫	兵庫県	211点

雨予報であったが、台風の影響により晴天に恵まれた。しかし、強風サイドや弱いサーマル、風向きは不安定で、初日はスピードランでタスクを発表したものの、ミニマムクリアできず、後にフォローとなりキャンセルとなる。2日目も、昼頃より雲が覆いだし、サーマルが弱い。スピードランは不可と判断し、セットタイム&ターゲットで競

技を行い成立となった。今大会は同時にSPS最終戦にも対応しており、こちらも順位をつけることができた。 [報告:村井 啓太]

第17回西富士ジャパクラシック

2002年12月31日～2003年1月3日

静岡県富士宮市 朝霧高原西富士エリア

[総合]

1位	大沼 浩	茨城県	878点
2位	鈴木 博司	三重県	865点
3位	大門 浩二	茨城県	858点
4位	安部 貢造	千葉県	757点
5位	松村 貴博	大阪府	732点
6位	梅田 昭守	岐阜県	695点
7位	中神 克彦	東京都	683点
8位	崎山 和弘	広島県	679点



年頭を優勝で飾った大沼選手。(撮影:北野正浩)

[女子]

1位	井手 有生	兵庫県	511点
2位	岡田 明子	静岡県	315点
3位	谷古宇瑞子	栃木県	251点

初日に42kmタスクが成立したが、2日目以降は強風や雪によりキャンセルとなった。初日のタスクは、毛無山の沖にある二つのターンポイントを取って向い風の中を戻る区間が勝負の決め手となった。テイクオフのタイミングによって最初のサーマルをつかめなかった選手が20人以上いたが、2日目以降で挽回するチャンスが与えられなかったのが残念であった。天気の違いが通常と比べて非常に早く、競技可能な気象条件が続かなかった。

今回からGPSが正式採用されたため、スタートのルールやターンポイントの回り方が変わったが、混乱は見られなかった。

[報告:北野 正浩]

第14回丹沢スカイグランプリ

ハンググライディング大会

2003年1月11日～14日

神奈川県秦野市 丹沢エリア

[クラス1 総合]

1位	大門 浩二	茨城県	2012点
2位	永光 秀明	千葉県	1821点

130Rの板尾に似てる人

僕等のエリアには芸人の板尾さんにそっくりな人がいます。最近テレビで見掛けないと思ってたらこんなところにいました。始めは嫌がっていた『イタオ』というあだ名も最近は満更でもなさそうです。テレビでは奮わなかったその才能で、今はエリアの人気者です。
ペンネーム:北京

あの人のエネルギー源

いつもコンビニの袋から顔をのぞかせるチョコチップパン。その人のお気に入りらしい。山に上がるまでの車の中でパクパク。テイクオフでパクパク。ランディングしてパクパク。あまりおいしそうに食べるので私も買って見た。それ以来すっかりはまっている私。最近では、私=チョコチップパンのイメージがついてしまった。本当は「あーさ」なのに.....
ペンネーム:チビの大きい方

憧れの職業

僕はパラを始めて、本当に「遊び人」という職業が有ることを知った。仕事をする暇がないほど飛びまわり、海外にも毎月のように飛びに行く。どうしたらなれるのか、就職活動中の僕に教えてください。
ペンネーム:player

天気にも恵まれない人

彼の参加する大会やイベントはことごとくキャンセルとなっています。記録的には四連続ぐらいでしょうか。彼自身まだ一度も成立してないようです。天気のような自然現象で「こいつ雨男だよ～」なんて言ってる人を見ると「馬鹿だな～」と存在を認めてみせませんが、最近ではちょっと生息を認め

がいます。「新しいのがでたから.....」と、まるでモーングのCDを買うのと変わらぬ勢いである。さらには衣替えをするかのようにハーネスも変わる。そして大変良心的な値段で放出されるグライダーやハーネスによって、特に貧乏学生たちにとってカリスマ的存在となっている。

ペンネーム:とっかえひっかえ

ヒマ病

エリアに行くといつもいる。雨が降ろうと、風が強かろうと常にショップにいる。「家にいてもする事ないし...」完全に病気である。かつての私がそうでした。でも、まだまだこの種の病気が蔓延していることを日本全国で確認することができる。

ペンネーム:住人?

お題はなあに?

今回のお題は「私のエリアの 人」
予想に反してキミヨウキテツな人は少ないようで.....(ホントかなあ)

かけてます。彼には是非これからも記録を延ばし雨男の生態系を確立してもらいたいです。ペンネーム:私のいないとこで

学生の味方

気がつくとグライダーが変わっている人

「お題はなあに?」はこれで終わります。投稿者の方々、ありがとうございます。ただいま次号からの新企画を暖めているところです。読者の皆さんが気軽に参加できるコーナーも作りたいですね。

「こんな企画がおもしろそうだ」という皆さんからのリクエストをお待ちしています。EメールまたはFAXでどうぞ。

E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp

FAX: 03-5840-8312

3位	大沼 浩	茨城県	1801点
4位	村松 学	茨城県	1791点
5位	平林 和行	千葉県	1731点
6位	鈴木 博司	三重県	1701点
7位	藤沢 勇一	茨城県	1675点
8位	今嶋 功	鳥取県	1581点

[クラス1女子]

1位	岡田 明子	静岡県	1415点
2位	谷古宇瑞子	栃木県	529点
3位	一階麻衣子	京都府	499点

[クラス5総合]

1位	佐々木弘道	千葉県	1952点
2位	古坂 学俊	茨城県	1932点
3位	塩野 正光	栃木県	1365点
4位	青木 政人	神奈川県	1064点
5位	藤田 直己	東京都	1053点
6位	山本 剛	神奈川県	1015点
7位	鈴木 清	埼玉県	723点


[クラス1 初日のスピードレースは、山へ戻ってからの上げの早さから鈴木選手が頭ひとつリードするが、タスクが短く満点にはならない。翌日のロングタスクも上位陣の多くは堅くゴールを決めるが、平均40km/h近い圧倒的な速さでゴールした。3日目はキャンセル。

強風で荒れる最終日、大門、大沼、岡田、藤沢の4人が山へ戻ることに成功するが、デイクオリティが低く、大門が逃げ切って優勝。学生ながら永光が2位に食い込み喝采を浴びた。鈴木は10m足りずセクターアウトで順位を落とす一方、貪欲な飛びで大沼が順位

を上げて3位となった。

[クラス5 初日のスピードレースは、古坂、塩野、佐々木の3選手が40分前半のタイムを出し地力の差を見せ付けるが、藤田以外はゴールメイクしたため点差はまだ少ない。2日目のロングタスクで佐々木が平均45km/hという高速ゴールを決めて1000点を獲得。そのあと、古坂、藤田が平均30km/h前半でゴールを決める。この時点で2日連続ゴールの佐々木、古坂の2選手が他を引き離す。3日目はキャンセルとなり、このまま最終日に突入。トップの佐々木を85点差で追う古坂がどう攻めるかが注目される。

最終日、佐々木が山に戻れず無念のランディングとなる一方、古坂はひとつ先のパイロンをクリアするが、デイクオリティが低いために点数が稼げず、点差は65点であった。結局2日目にレベルの高い飛びを見せた佐々木が丹沢初のClass5大会の優勝をもち取った。 [報告:山本 剛]

 パラグライダーレース in 富士山

2003年1月11日～13日

静岡県朝霧高原

1位	伊澤 光	2742点
2位	大澤 行英	2685点
3位	吉川 正雄	2576点
4位	川地 正孝	2515点
5位	今田 盛	2503点
6位	岩沢 広喜	2468点
7位	星 利彦	2440点

8位 岩瀬 茂寛 2381点

3日間、好コンディションに恵まれ、3本成立という近年のJリーグに類を見ない成功を納めることが出来ました。また12日には、朝霧アリーナにて「たこたこあがれin富士山」というイベントが併催され、約5,000人の観衆を集める事に成功し、空中における一斉スタートや最大のヤマ場であるゴールシーンを観戦して頂く事が出来ました。これによりパラグライダーそのものを世間一般に認知してもらおう事が出来ただけでなく、競技がいかなる物であるかということもアピールする事が出来ました。さらに、選手にはゴールという「喜び」だけでなく、大勢の視線と拍手で迎えられた事による「感動」を味わって頂く事が出来て、競技だけでなくイベントを含めたこの取り組みに、大いに満足して頂けました。 [報告:川地 正孝]

JHF教員更新講習会開催

2003年3月12日・13日の1泊2日間、栃木県宇都宮市「スカイパーク宇都宮」において教員更新講習会を開催します。HG及びPG教員技能証の更新を予定している方が対象。受講料は無料(宿泊・食費、エリア利用料の実費負担)。申し込みは3月3日までにJHF事務局に。関係者には案内書を配布済みです。尚、近い将来更新講習会の受講を「義務」とする方向で、ただいま調整中です。

学連だよ!全員集合!!

こんにちは。いよいよ学生リーグファイナルが近づいてきましたね。ということで今回は、学生リーグファイナル直前スペシャルとして、学生リーグの担当者として2002年に行われた学生リーグを振り返ってもらいました。ファイナルとなる各大会のPR、開催エリアの紹介もあわせて書いてもらいました。

Gリーグを振り返って

2002年8月の鳥取合宿から始まったPG学生リーグ、Gリーグも残すは3月に開催されるパラフェスタ2003 IN 足尾のみとなりました。Gリーグは学生主催の大会や合宿に参加した学生や上位入賞者に得点を加算していき、年間で学生PGを最も盛り上げた学生・サークルを決めようと思いましたが、今年度は学生がどのようなリーグを求めているのかを探るための1年となりました。Gリーグを始めたおかげで全国の学生との交流の場、情報交換の場、そして意見交換の場を作ることができました。大成功とは言えませんが2年目以降につながる年となりました。

パラフェスタ2003 IN 足尾【春一番】

3月19日(水)～21日(金)に毎年恒例のパラフェスタを足尾で開催します。大会のコン

セプトは競技しつつ全国の学生フライヤーとの交流を深め、かつ戦う!です。春の足尾のポテンシャルはなんといっても高い。学生パラ子、本気で来てもよし、みんなと仲良くなり来てもよし、レセプで騒ぎに来てもよし、ちょっとお手伝いに来てもよし、もうなんでもよし。ご参加お待ちしております。

HGリーグを振り返って

今年度のHGリーグを振り返ってみると、足尾でのNASAS、華山での西学選、十分一での新人戦と、実にいろいろな場所に行きました。それぞれに楽しい思い出があります。大会の一番の楽しみとは、全国で飛んでいる学生達に会えることです。インストラクターの話も参考になるし、大会で競うことで飛びに対する目的意識も生まれます。全国各地に仲間と飛びに行く、そのことだけでも心躍ります。そのような刺激の多い大会というものを少しでも多くの人に楽しんでもらう為、2002年から2nd.リーグ(デュレーションクラス)も開催しました。最後の大会もみんなのいい思い出ができるようにがんばってまいります。

関西HGからの紹介エリアは、今年3月3日～6日にハング学選が開催される和歌山

県の龍門山です。テイクオフとランディングがそれぞれ2ヶ所あり、ハングが使用する龍門テイクオフは高度差580m、パラが使用する寺山テイクオフは高度差280mです。どちらのテイクオフを利用しても、川原にランディングします。眺めの良さは折り紙つきです。またフライト条件の面では、北向きのエリアである為、西高東低の冬の気圧配置で好条件に恵まれることが多く、1000mゲインもめずらしくありません。あがれば景色は絶品。紀ノ川の流れ込む大阪湾が一望でき、遠くの上には関西空港も見えます。

*毎回、各地区の代表の人に書いてもらっている紹介のコーナーはハング学選が行われる龍門山を関西HGからの紹介エリアとしました。

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっと詳しく学連のことを教えてほしい」やその他学連への応援・苦情は下記まで。

別田義典(福井県立大学3年)

Eメール:s0012088@s.fpu.ac.jp

学連HP <http://www.geocities.co.jp/>

Outdoors/2273

@sky

空のかお

その48

竹内 賢さん

(タケウチ サトシ)



「パラグライディングを始めたのは、昔から飛んでみたかったという気持ちを抑えられなかったから」と言う竹内さんは、奥さんとお子さんを大切にす一家の主。1月にパイロット証を取ったので「妻の実家である岩手県または富士山の見えるエリアなど自然の美しい場所で飛んでみたい」と語ってくれました。また、海外に行くならバリのリッジエリアで海の上を飛んでみたいそうです。

これからの目標としては、さらに練習を重ね、いずれはタンデム証を取り、お子さんと一緒に飛びたいとのこと。冬でも飛べるホームエリアで、竹内さんは今日も練習に励まれていることでしょう。

これからも安全に気をつけてがんばってください。

連絡ノート
JHF
フライヤー

2002年度3月総会の傍聴について

3月11日(火)午後1時から5時まで、東京都羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」ギャラクシーホールにて2002年度3月通常総会を開催します。傍聴を希望される方は、2月28日までに事務局にご連絡ください。

氏名・住所等が変わったら

お名前やご住所が変わったら、すぐ事務局にお知らせください。ご連絡がないと、JHFレポートをお届けできません。変更届けはJHFホームページからもできますので、活用してください。

技能証申請について

技能証を申請する際、申請書の裏面で記入箇所を確認し、漏れのないようご注意ください。各項目の氏名の後には、捺印もお忘れのないようお願いいたします。

フライヤー会員証が届かない場合

フライヤー会員登録の更新の際、会費を払い込んでから2週間経ってもお手元に会

員証が郵送されない場合は、お早めに事務局にご連絡ください。

技能証申請書が新しくなりました

教員の皆様へ:正確かつ迅速な技能証発行のため、新しい技能証申請書を作りました。新申請書は1種類のみ。この用紙で、全技能証の申請ができ、紛失等による技能証再発行申請もできます。

新申請書は、ご請求いただいたスクール(教員)にお送りしています。2003年1月1日から、勝手ながら従来の申請書は使用できなくなりましたのでご注意ください。

未成年の技能証申請

未成年の技能証申請には、保護者の承諾が必要です。詳しくは技能証規程で。

ポイントシステムへのエントリー

ポイントシステム「ハンググライディングシリーズ」『ジャパンリーグ』の2003年登録申込み受け付けを行っています。参加をご希望の方はJHF事務局まで。

尚、SPS(スポーツパラグライダーシリーズ)は事前に登録する必要があります。SPS大会に気軽にご参加ください。

JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

(電話は月～金曜日の9:30～17:30に)

E-mail:jhf@skysports.or.jp

12月・1月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

12/3 岩森 正克
12/3 北條美代子
12/3 山下 敦子
12/3 中嶋 俊明
12/3 高田 大輔
12/3 神野 公平
12/3 中田美由紀
12/4 三木 堅司
12/4 末永 明義
12/4 奥田 絵里
12/10 高塚 誠
12/10 井村 高久
12/10 高橋 博
12/10 梅本 宏美
12/10 中村 和芳
12/10 丸村ロ フェルナンデス
12/10 山梨 武快

12/10 金澤 賢蔵
12/10 関口 均
12/10 相澤健太郎
12/12 伊藤 茂樹
12/12 根岸 勝世
12/13 小林 孝幸
12/13 藤咲 克昭
12/13 船島 雄治
12/17 二瓶 朋子
12/17 江口 綾子
12/19 福島 勝彦
12/19 石井 夕実
12/19 湯田 和也
12/19 吉隆 和博
12/19 新垣 武次
12/19 小笠三千好
12/19 大村 次夫

12/19 梶原 豊
12/19 大久保睦子
12/25 西原 康晴
12/27 墨野倉 哲
1/9 松井 弓子
1/9 檜崎 義人
1/9 大竹 和江
1/9 大竹 忠夫
1/9 武石 和枝
1/9 小林 良子
1/9 平林 史恵
1/9 飯干三千男
1/9 黒岩 七郎
1/9 戸田 一雄
1/9 橋本 寛
1/9 新實 岳志
1/9 内野 位江

1/9 林田 政行
1/9 瀧川 昇
1/9 郷内 栄喜
1/9 望月 聖司
1/10 永浦 正義
1/17 橋瀬 栄子
1/17 横川 憲久
1/20 白子 育美
1/20 岡坂 則枝
1/20 竹内 賢
1/20 藤野 英二
1/20 大山 正義
1/20 野瀬 暁彦
1/22 川合 義年
1/22 笹野 徳子
1/22 山道 好之
1/27 池田 清美

1/27 谷口 武信
1/31 上林 修
1/31 福永 重宏
ハンググライディング
12/3 篠原 裕孝
12/3 長瀬 明恵
12/3 不破 靖弘
12/3 塩野 浩二
12/3 松岡 大智
12/10 六反田隆英
12/10 八瀬 義行
12/11 久住 有加
12/17 戸田 修司
12/19 石川 芳正
1/9 谷脇 博
1/10 大竹 直樹

訂正

前号「カレンダー」で、「パラグライディングワールドカップ茨城」の開催日に誤りがありました。正しくは3月24日から30日までです。

前号までの「技能証発行数」で、ハンググライディング/パラグライディングの補助動力証発行数累計に誤りがあり今号で訂正しました。

1月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	11月30日現在の有効登録数	12月の登録数	1月の登録数	1月31日現在の有効登録数
1年		311	240	
3年		250	190	
合計	20,164	561	430	20,362

12月・1月の技能証発行数 ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	12月の発行数	1月の発行数	1月31日までの発行数累計	技能証種類	12月の発行数	1月の発行数	1月31日までの発行数累計
A証	15(5)	4(0)	12,239	A証	137(46)	68(21)	48,176
B証	9(3)	7(0)	11,811	B証	121(35)	66(20)	43,137
C証	6(1)	10(4)	7,095	NP証	59(12)	41(9)	11,089
P証	10(2)	2(0)	5,028	P証	38(8)	33(10)	20,148
補助動力証	0	0	29	補助動力証	4(0)	0	866
XC証	15(1)	2(0)	1,210	XC証	9(1)	12(0)	4,212
タンデム証	0	0	48	タンデム証	14(0)	9(0)	806
モーターパラグライディング							
				P証	60(0)	24(0)	205

編集を終えて

木々の芽がふくらんできた。春はもうすぐだ。エリアではクロスカントリーが話題になる頃。XCベテランの話と聞いてみると簡単そうに思えるかも。でも、未知の世界に飛んでいくのだから準備万端整えて、安全第一で。 JHF広報出版部

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp>

i-MODE(NTT DoCoMo) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/i/index.html>
J-SKY(J-PHONE) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/j/index.html>
EZweb(au DIGITAL) <http://www.d2.dion.ne.jp/haku/jhf/ez/index.wml>

JHFレポート3・4月号(No.176)

発行日 2003年2月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
E-mail : jhf@skysports.or.jp

編集 JHF事務局広報出版部
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。